opusdei.org

聖ホセマリアの生涯 -38

1938年7月「エブロの戦い」 と呼ばれるスペイン内戦最大 の激戦が始まり、前線で戦っ ているメンバーや若者から聖 ホセマリアに送られる手紙の 数はめっきり少なくなりま す。

2024/02/10

過去の記事はこちらから

ブルゴスの聖ホセマリアの最大の心 配事は、スペインのあちこちに散ら ばっているメンバーと家族のことでした。1938年7月「エブロの戦い」と呼ばれるスペイン内戦最大の激戦が始まり、前線で戦っているメンバーや若者からの手紙がめっきり少なくなりました。戦争はすぐには終わりそうではありません。

共産主義者の支配下にあるマドリードにはアルバロを初め数人のの若いが残っていました。彼が近れたのは、アルル共に当たっていたのにはでいたが、ないと対したが、全部失敗し、国境をもしたが、全部失敗には軍隊に入りません。そのためには軍隊に入りません。隊に配置されなければなりません。

上述した激戦のため、共和国は兵士 の募集を始めました。アルバロとビ センテ・ロドリゲス、エドワルドの 三人は困難な手続きをして、なんと か入隊することができました。しかも、なんと三人は同じ部隊に配属され、さらに部隊はブルゴス県の南にあるグアダラハラ県に派遣されたのです。

三人はこれに神様の配慮を感じまし た。入念に打ち合わせをし、10月11 日の夜明け頃、激しい雨の中、陣地 を脱出。一日中山中をさまよい、夜 は洞窟で眠る。翌朝早く行進を再開 するとかなたに村が見えました。そ のとき教会の鐘の音が聞こえたので す。それはミサの始まりを知らせる 鐘でした。ちょうどスペインの国民 的祝日であるピラールの聖母の祝日 でした。一年三ヶ月ぶりに教会でミ サに与り、国民軍の事務所に出頭し 事情を説明しました。ビセンテの父 親は陸軍の大佐であったので、その 後の手続きは簡単に済み、14日にと うとうブルゴスで家族と聖ホセマリ アに再会を果たしました。

パドレは10月はできるだけブルゴスにいて、若いメンバーたちと過ごしました。しかし、激しい戦争は続いています。若者たちは各地に散って行かざるを得ませんでした。

聖ホセマリアは、できるだけ彼らと 頻繁に会って霊的な指導を与えつ つ、戦争が終わってからの活動につ いて計画を立て、着々と準備を進め ていました。

尾崎明夫

pdf | から自動的に生成されるドキュメント https://opusdei.org/ja-jp/article/sei-josemaria-38/(2025/12/15)